

横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年11月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は、低めの報告数で推移しています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	13件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症：O157が2件、O不明2件(いずれも無症状病原体保有者)報告がありました。
- E型肝炎：1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- レジオネラ症：肺炎型2件の報告がありました。いずれも80歳代で、感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎：B型1件の報告(ワクチン接種歴無)がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：G群1件、A群1件の報告がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(異性間1件、同性間1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症：80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満2件(いずれもワクチン接種歴4回有)、50歳代1件(ワクチン接種歴無)、70歳代2件(ワクチン接種歴不明1件、1回有1件)、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者2件(男性6件、女性7件)で、そのうち12件に性的接触(異性間9件、同性間2件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 播種性クリプトコックス症：免疫不全によるものと推定される80歳代の報告が1件ありました。

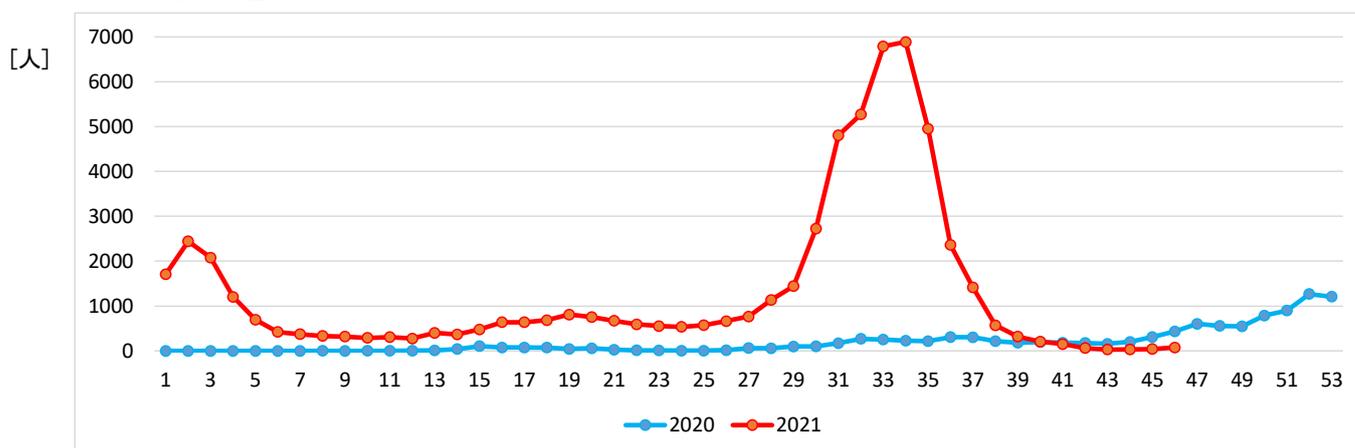
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第43週～第46週に横浜市から報道発表のありました症例は180件でした。

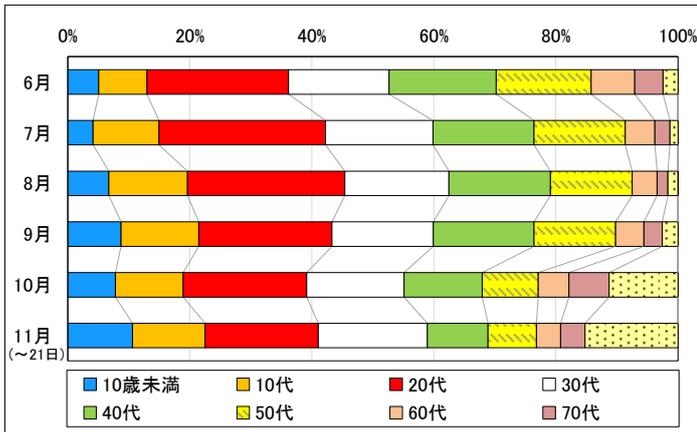
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

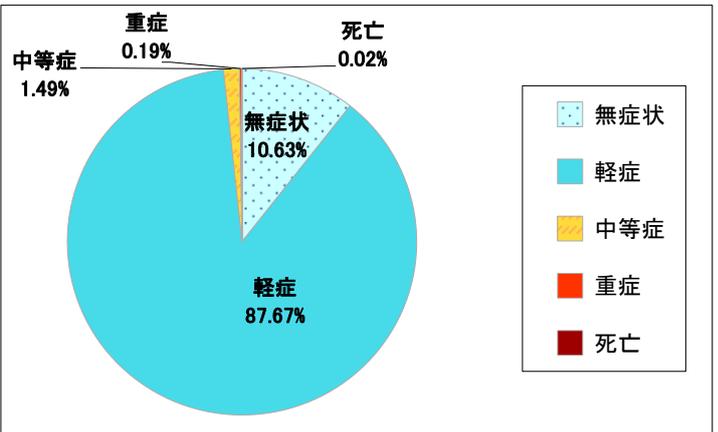
1 報告数の推移



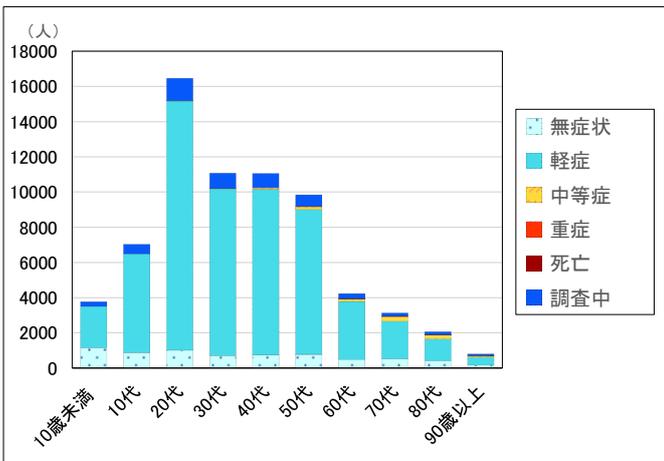
2 年齢別割合



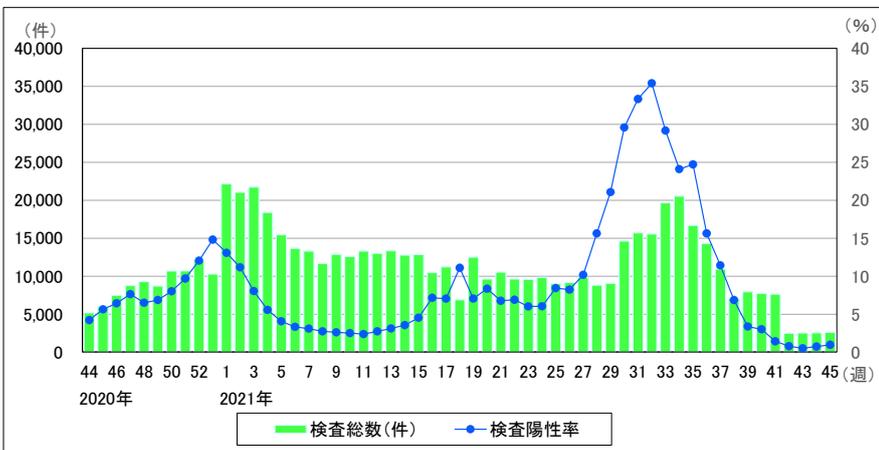
3 陽性確定時の症状の割合(2021年第46週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2021年第46週まで)

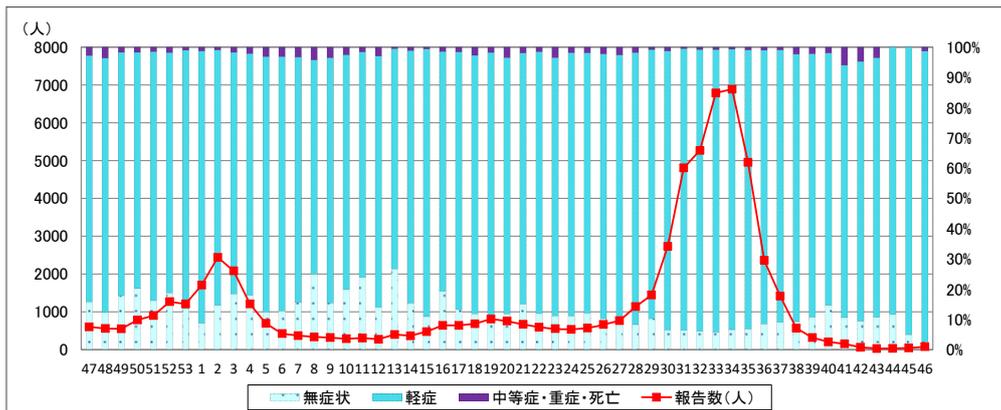


5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2020年第44週~2021年第45週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

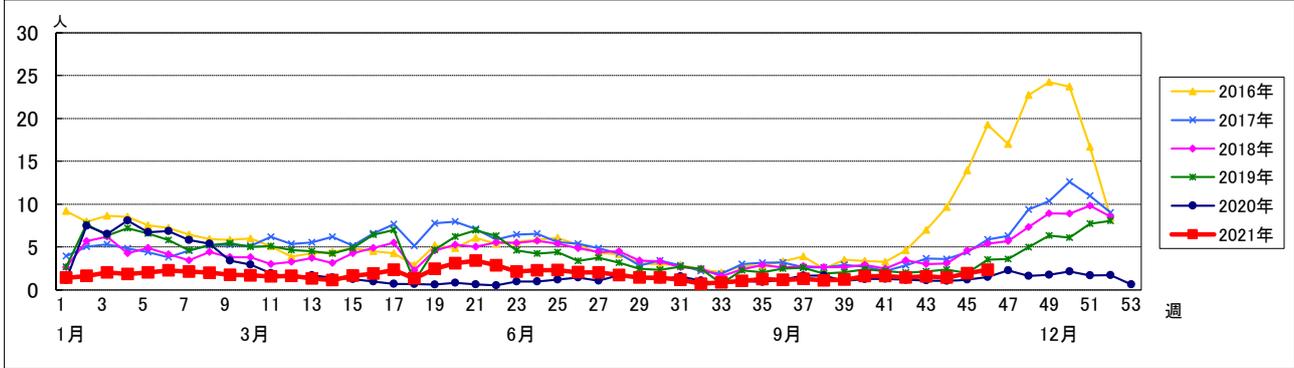
6 報告数と届出時点の重症度(2020年第47週~2021年第46週)



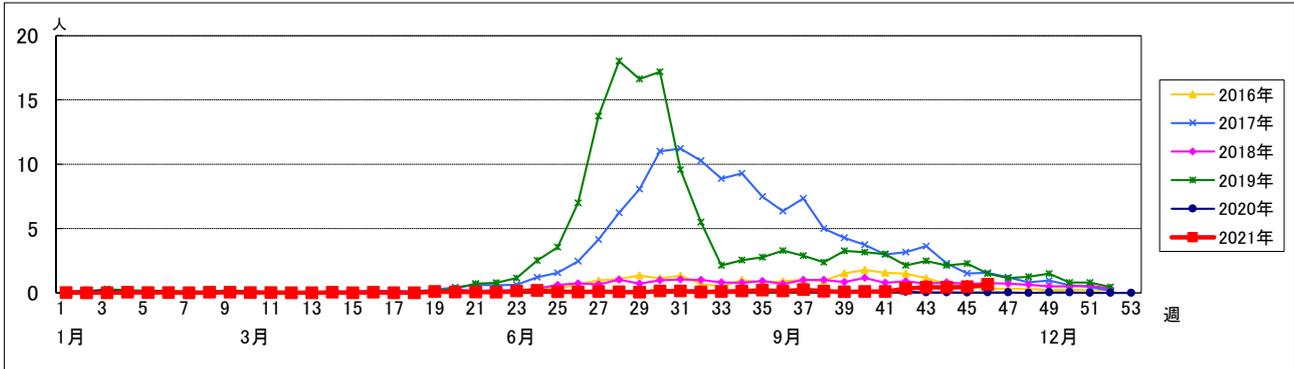
報告週対応表	
第43週	10月25日～10月31日
第44週	11月1日～11月7日
第45週	11月8日～11月14日
第46週	11月15日～11月21日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第44週1.43、第45週1.92、第46週2.33となっています。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第44週0.42、第45週0.45、第46週0.64となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:0件	淋菌感染症	男性:16件	女性:9件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月期(2021年第43週～第46週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点4件、眼科定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

ライノウイルス遺伝子8件、コクサッキーウイルスA4型遺伝子2件、コクサッキーウイルスA6型遺伝子3件及びアデノウイルス56型分離1株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第43週～第46週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	流 行 性 角 結 膜 炎
アデノウイルス 56型			1 -
ライノウイルス	- 6	- 2	
コクサッキーウイルス A4型	- 1	- 1	
コクサッキーウイルス A6型	- 3		
合計	- 10	- 3	1 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

11月期(2021年第43週～第46週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、同定依頼1件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼は、非結核性抗酸菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌5件、侵襲性肺炎球菌3件、侵襲性インフルエンザ菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。「小児サーベイランス」の小児科定点から消化器系病原菌1件、溶血性レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2021年第43週～第46週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Klebsiella aerogenes</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	同定依頼	1	16s rRNA配列解析の結果 <i>Balneatrix alpica</i> が最上位(96.4%)で <i>Oceanospirillales</i> 目の候補が多かった (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌 (NTM)	1 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i>	
保健所		腸管出血性大腸菌	5 O157 : H7 VT1 VT2 (2)、OUT : H+ VT1 (3)	
		侵襲性肺炎球菌	3 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 22F型 (2)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 7型 (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌	2 <i>Haemophilus influenzae</i> UT (2)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1 G群溶血性レンサ球菌 (1)	
		カンピロバクター	1 <i>Campylobacter jejuni</i> (1)	
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	直腸ぬぐい液	消化器系病原菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> エンテロトキシンA (1)
	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】